

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	幼児期等の教育と保育の充実			総合計画コード	211
部名	福祉部	主管課名	保育課	主管課部課コード	040350
関連部課名	—				

1. 施策概要

めざす 目的成果	保護者の多様なニーズに対応でき、安心で安全な保育園・小規模保育施設・家庭保育室・放課後児童クラブが整備されている。				
施策概要	保育園等や放課後児童クラブについては、必要に応じて施設の増改築や改修をすすめ、適正な運営と維持管理を実施します。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市子ども・子育て支援事業計画	計画期間	H 27 年度	～ H 31 年度
				H 年度	～ H 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	・公設保育園の管理運営(公営10園、民営2園)【分園を含む】 ・民営保育園への給付費支給(22園)【分園含む】 ・小規模保育施設への給付費支給(11施設) ・放課後児童クラブの管理運営(指定管理者制度、10施設) ・家庭保育室への運営費補助(7施設) ・私立幼稚園への就園費等補助(8園) ・障害児放課後児童クラブへの運営費補助(1施設) ・子育て支援センター(さくら・きたはら)の管理・事業運営 ・ファミリーサポートセンターの事業運営					
H28年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	市民が安心して暮らせるための社会保障制度(保育サービス)の適正な運営を実施した				
	子育てが しやすいまち	待機児童解消のため、認可保育園の整備を図り、保護者には、保育料の負担軽減補 助を実施した。				
	つながりのある 元気なまち	住み慣れた地域で暮らし続けるため、保育サービスの質の向上に向けて取り組んだ。				
	自然・環境に 恵まれたまち	公園等で自然とふれあう機会が作れた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		6,134,891	—	—	—	—

指標名 (説明)		単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
			目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
			実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
①	保育園等定員数	人	2,854	3,004	3,004	3,004	3,004
	(説明)認可保育園・小規模保育施設の定員数		2,846	—	—	—	—
②	待機児童数	人	0	0	0	0	0
	(説明)保育園等の入園希望があっても入園できなかった児童数(4月1日現在)		79	—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ☐ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ☐ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ☐ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ☒ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 保育園・小規模保育施設の定員は目標値に近づけているものの、入園希望者が増加していることから、待機児童の解消に向けた達成は難しい。 併せて、放課後児童クラブについても、民間事業者の参入により、低学年の待機児童解消を図った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ☐ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ☐ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 就学前児童数は、ほぼ横ばいであるが、子育て中の女性の就労希望のニーズが高いため、保育園等への申し込み希望者は増加傾向にある。そのため、待機児童解消に向けて、受け皿の拡充を引き続き進める必要がある。 併せて、放課後児童クラブも同様に、受け入れ定員の確保に努めていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 保護者の多様なニーズに対応するため、保育園、小規模保育施設、家庭保育室、放課後児童クラブなど、さまざまな保育サービスの充実を計画的に進めているが、待機児童の解消には至っていない。 特に、0歳から2歳児までの低年齢に待機児童が生じている。 待機児童の解消を図るため、平成29年度に向けて、保育園4園、小規模保育施設3施設を開設するとともに、民間放課後児童クラブ2施設を開設する。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化 ☐ 内容の見直し					
	(説明) ・保育園及び放課後児童クラブの待機児童を解消するため、子ども・子育て支援事業計画の見直しを含め、確保対策を進める。 ・未就学児の待機児童の解消にあたっては、小規模保育施設や幼稚園などの活用を図るとともに、家庭保育室からの認可化移行を進める。 ・放課後児童クラブについては、民間事業者を活用し、保留児童の解消を図る。					
行政と市民の役割分担	☐ Ⅰ 行政の関与(役割)を拡大 ☒ Ⅱ 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ☐ Ⅲ 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) ・待機児童の解消にあたっては、保護者や関係事業者、学識経験者などで構成される、朝霞市子ども・子育て会議での意見を踏まえ検討していく。 ・保育園及び放課後児童クラブの運営については、保護者との懇談会などを通じて意見交換を行い、保護者のニーズに沿った保育サービスの充実を図る必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
☒ 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【保育園等運営審議会】平成29年度保育園等入園申請等に対する諮問を行い、答申をいただいた。 【朝霞市子ども・子育て会議】子ども・子育て支援事業計画の事業の見込み量と確保量の見直しの検討や、平成27年度の進捗状況の報告を行った。 【社会福祉法人認可等審査委員会】新たな社会福祉法人の認可申請希望事業者に対して、学識経験者で構成されている委員の意見を聞き、認可に関する審議をしていただいた。					
部長の意見	子ども・子育て支援事業計画に基づき、保護者の多様なニーズに応えるとともに、安心・安全なサービスの提供に努めている。また、増加する保育需要に対して、計画的に施設整備等を進めているが、待機児童の解消には至っていない状況である。今後も、市民ニーズを適切に把握し、必要な事業を実施できるように努める。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方角性

施策名	幼児期等の教育と保育の充実			総合計画コード	211
部名	福祉部	主管課名	保育課	主管課部課コード	040350
関連部課名	—				

	事務事業名	総コスト(事業費＋人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方角性
		H27決算	H28決算見込			
	1 保育園運営事業	2,035,067	2,094,904	5	5	現状のまま
	2 保育園施設管理事業	55,376	55,250	5	5	現状のまま
	3 保育園施設改修事業	6,904	7,165	5	5	現状のまま
	4 給食食材放射性物質測定事業	4,790	5,113	5	5	現状のまま
	5 私立保育園就園費等補助事業	4,753	3,339	5	5	縮小
	6 子ども・子育て支援事業計画推進事業	1,443	2,896	5	5	現状のまま
	7 放課後児童クラブ運営事業	386,082	463,039	5	5	拡大
	8 放課後児童クラブ施設管理事業	15,790	8,761	5	5	現状のまま
	9 私立幼稚園就園等助成事業	250,097	256,652	5	5	現状のまま
	10 子ども・子育て支援事業	2,113,062	2,504,379	5	5	拡大
	11 民間社会福祉施設整備補助事業	0	641,737	5	5	縮小
	12 家庭保育室支援事業	96,211	91,656	5	5	縮小
	13 ファミリーサポートセンター	7,183	6,939	5	5	現状のまま
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計（単位：千円）	4,976,758	6,141,830	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方角性